

暮らしの中の仏教用語 ①単位 ②どっこいしょ

---

平成31年3月第5週放送

①<sup>たんい</sup>単位

メートルやリットルなど長さや量の数値の基準となるものを、単位というのはご存知のことと思います。また、大学などで学科の履修証明を与える基準となる一定の学習量を単位とといいます。

この「単位」とは、もともと禅の用語で、単位は下の一字「位」を略し「単」ともいい、禅の修行道場において、修行僧の坐る座位のことをいいます。修行僧は道場の単で坐禅を組み、食事をしたり睡眠をとります。

「起きて半<sup>はんじょう</sup> 畳、寝て一<sup>いちじょう</sup> 畳」という言葉があるのですがこの言葉が示す通り、単の大きさは、だいたい畳一畳分になります。

修行道場の空間を、単を基準として、修行僧に与えるわけです。このことから、数量や学習量の基準となる言葉として「単位」が用いられるようになったと考えられます。

②どっこいしょ

少々年を重ねてくると、立ったり座ったりする時に思わず「どっこいしょ」ということが多くなりませんか。

この「どっこいしょ」は、「六根清浄」が変化したものといわれています。六つの根という字に、「きれい」を意味する「清浄」を「しょうじょう」と読む言葉を加えたものです。六根とは仏教用語で・・「眼（げん）・耳（に）・鼻（び）・舌（ぜつ）・身（しん）・意（い）」のことです。

「眼（げん）」は目、「耳（に）」は耳、「鼻（び）」は鼻、「舌（ぜつ）」は舌（<sup>した</sup>）舌、「身（しん）」はからだ、「意（い）」は意識を表します。私たちの感覚器官のことです。六根がきれいになるように、というのが「六根清浄<sup>ろっこんしょうじょう</sup>」の意味になるでしょう。

## 『 禅のこころ -曹洞宗- 』

---

六根をきれいにするということには、余計な思いや考えをまじえることなく、世界やものごとをありのままに観察する、という仏教の教えがこめられているといえます。

富士山などの山を「六根清浄、六根清浄」と口にしながら登る方は今もいらっしゃいます。山そのものを信仰する山岳信仰においても、余計な思いや考えをまじえずに、山を敬うという意味で、この言葉を唱えるのでしょうか。「六根清浄、六根清浄」と唱えながら山を登っていきます。すると・・・「ろっこんしょうじょう」が「ろっこんしょう」それから「どっこんしょ」そして「どっこいしょ」といったように、変化していったのかもしれませんが。「どっこいしょ、どっこいしょ」と唱えながら、疲れた体を前に進めていく様子が想像されます。

このようなことから、やや疲れをおぼえながら、動作をおこなう時にかける言葉として、「六根清浄」が変化した「どっこいしょ」を用いるようになったのではないのでしょうか。

— 終 —